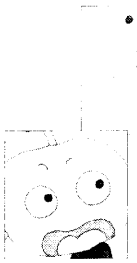

「生活科」・「総合的な学習の時間」学習指導案

足寄芽登小学校 10名（1年2名、3年1名、4年3名、5年1名、6年3名）
指導者 野上泰宏、佐藤陽子、葛西尚美（校長 佐川寿勝、養護教諭 山口潤子）

1．題材、単元、主題名

「しらべたことやたいけんしたことをしらせよう！」
（総合的な学習の時間～まなび－０５）

2．ねらい、目標

○　壁新聞を使って、自分の調べたことや体験したことを多くの人に知らせる。
○　新聞づくりを通して、全国の人たちを意識した情報を発信する力を育む。

3．新聞づくりのねらい

本校では、教育目標「豊かな心でたくましく生きる子ども」を育てていくことを目指し、小規模校ならではの体制、たとえば教職員が一丸となって全校児童の教育に携わること、一人一人の児童の様子を細やかに見とることなどを生かしながら、日常の教育実践を行っている。

平成１３年度から「ふるさとを生かした総合的な時間および一部生活科の学習のあり方」を研究主題にし、実践を積み上げてきた。その結果、児童は「ひと・もの・こと」と直に出会い、関わりを持つ中で、自分の課題をもち、調べることに興味を持ちながら進めていく姿が多く見られた。実体験の持つ感動や五感の刺激は、児童の課題づくりに大きな影響を与えることも検証された。

しかし、児童が情報収集のために行うインタビューの様子や、調べ活動後の発表、児童相互の練りあいの場面を観察すると、正確に聞く、話す、まとめるという、言葉を基本とした豊かな自己表現力が育っているとは言いがたい。これまでの実践では調べる方策（学び方）を重視するあまり、「表現力の育成」に多くの時間を伝やせなかったという反省が残った。そこで平成１６年度から研究主題を「自分の思いを豊かに表現し、伝え合う児童の育成～国語科の指導のあり方」とし、児童の表現力の向上を課題とした国語科の授業改善を主にすえながら、あらゆる教育活動において「表す力」を育てる手立ての実践研究に取り組んでいる。

今回の「全校児童による新聞づくり」もその一環であり、国語科で育んだ言語能力を他教科・他領域と連携させ充実させていくものである。知らない人たちに自分たちの思いや体験した出来ごとを伝えるうえで、なにが大切で、どんな工夫が必要なのか、日常の学校生活では意識しがたい「表現の工夫」を新聞づくりを通して、考えさせていきたい。

4．指導計画（１０時間扱い）

本時～７時間目

段階	時間	学習活動	留意点
つかむ	1	○課題の把握 ・新聞づくりの目的を知る。 ・書きたいことを考える。	６年生が中心になり進めていく。
ふかめる	4	○原稿書き ・原稿を作成する。 ・見出しを工夫する。 ※構成を考える→6年生	各学級で取り組む。
まとめる	5	○各記事を一枚の新聞用紙にまとめる。 ・字数にあわせて清書する。 ・見やすく、わかりやすいように工夫する。 ○できあがった新聞を読み、活動をふりかえる。	係分担に従って作業する。

5．学習展開

(1) 本時の目標

1年　・自分の書きたいことを整理し、よい新聞を作ろうとすることができる。
3、4年　・自分の原稿を整理し、見やすくわかりやすい新聞を作ることができる。
5、6年　・多くの人に自分たちの記事をよんでもらえるように、工夫して新聞を作ることができる。

(2) 本時の展開

指導課程	学習活動	教師の支援	評　価
つかむ	○前時までの活動を振り返る。 ○新聞作成のポイントを確認する。 ① 読む人にわかりやすく ② 目をひく見出し ③ みんなで協力して ○今日の課題を理解する。 芽登小のことをみんなに知らせる新聞をつくろう	説明する児童を補佐し、低学年にわかるように支援をする。	低～新聞作りに関心をもっているか 中・高～前時の活動を想起し、課題を自分のものにできたか
ふかめる	○グループ（学年）ごとに作業をする。 ・記事を書く ・見出しを入れる ・レイアウトを工夫する ※ 各グループの統括を、6年生が行う。	リーダーを生かすような言葉かけを、行う。 学年差を考慮し、構成の支援をする。	全員～意欲的に取り組んでいるか。 6年～自分の役割を自覚し、責任を果たそうとしているか。
まとめる	○今日の活動のまとめをする ・できたこと ・この次にやること ○次時予告	子どもたちのがんばりを認める。	全員～次時に生きるふりかえりができたか